

第二十四章 ※ヨハ子 ※キリスト  
神世開基と神息統合 (二四)

神界しんがいにおいては国常立尊くにとどちのみことが厳いづの御魂みたまと顕現けんげんされ、神政しんせい發揚はつやう直ちの御魂みたま変性へんじやう男子なんしを機関きかんとし、豊雲野尊とよぐもぬのみことは神息統合キリストの御魂みたまを機関きかんとし、地ちの高天原たかあまはらより三千世界さんぜんせかいを修理固成しゅうりこせいせむために竜宮館りゅうぐうやかたに現あらわれたもうた。

竜宮界りゅうぐうがいにおいては、三千年さんぜんねんの長き艱難苦勞かんなんくろうを嘗なめた竜神りゅうじんの乙米姫命おとよねひめのみことは、変性男子へんじやうなんしの系統ひつぽうの肉体にくたいの腹はらをかりて現あらわれ、二度目にどめの世よの立替たてかえの御神業ごしんぎやうに参加さんかすべく、すべての珍宝ちんぼうを奉たてまつられた。この乙米姫命おとよねひめのみことは、竜神中りゅうじんちゆうでも最も貪婪強慾どんらんちやうよくな神かみであつて、自分の慾よくばかりに心こころを用もちいている、きわめて利己主義りこしぎぎの強い神かみであつた。それが現代げんだいの太平洋たいへいやうの海底かいてい深く潜ひそんでいたが、海底かいていの各所かくしょより猛烈もうれつな噴火ふんかの出現しゆつげんするに逢あひ、身みには日々にち三寒さんかん三熱さんねつの苦くるしみを受うけるばかりでなく、その上に猛烈もうれつな毒熱どくねつを受うけて身体しんたいを焼やかれ、苦しみにたえずして従来じゆうらいの凡ゆる慾望よくぼうを潔いさぎよく打ち捨てて、国常立尊くにとどちのみことの修理固成しゅうりこせいの大業たいぎやうを感知かんちし、第一番だいいちばんに※帰順ききんされた神かみである。

かくて凡すべての金銀きんぎん、珠玉しゆぎよく、財宝さいほうは、各種かくしゆの眷属けんぞくなる竜神りゅうじんによつて海底かいていに持ち運はこばれ、海底かいには宝たからの山やまが築きずかれてある。これは世界中せかいじゆうもつとも深い海底かいていであるが、ある時期じきにおいて神業かむぎの發動はつどうにより、陸上りくじやうに表現ひょうげんさるものである。要するに物質ぶつしつ的てきの宝たからであつて、神業しんぎやう

※神世開基(ヨハ子)……変性男子の肉宮。みろくの神世の基を開かれた国常立尊のこと。または、この神の神業に奉仕された大本開祖を、ヨハネの御魂という。

※神息統合(キリスト)……豊雲野命は神々を統一する神業であり、この神業は素盞鳴尊の帰神された瑞霊出口王仁三郎聖師が完成された。

※豊雲野尊……瑞の御霊。体系の祖神。またのみ名、豊国姫の神。国治立命と剛柔相對して地上に動植物を生成化育し、二神の火水(いき)より諾冊二尊を生み、日月を造りてその主宰たらしめ給う。

※乙米姫命……現界的には大本開祖の長女(天槻)米のこと。ただ日の出神の配偶神と顕現した場合は第五女澄子のことになる。

※帰順……反逆の心を改めて、服従すること。

の補助材料とはなるが、本当の間にあう宝とはならぬ。乙米姫命は大神に初めて帰順した時、その宝を持って来られたなれど、大神はそれ以上の尊き誠の宝を持つておられるので、人間の目に結構に見ゆるようなものは、余り神界では重宝なものと見られない。しかしとに角生命よりも大切にしていた一切の宝を投げだした其の改心の真心に愛でて、従来この罪をお赦しになった。この神人が改心して財宝をことごとく捨てて、本当の神の御神意を悟り、麻邇以上の宝を探りあて、はじめて崇高な神人の域に到達し、ここに日の出神の配偶神として顕現されたのである。

つぎに地底のもつとも暗黒い、もつとも汚れたところの地点に押込まれておられた大地の金神、金勝要神が、国常立尊の出現とともに、天運循環して一切の苦を脱し、世界救済のため陸の竜宮館に顕現された。この神人は稚姫君命の第五女の神である。この金勝要神が地球中心界の全権を掌握して修理固成の大業を遂げ、国常立尊へ之を捧呈し、国常立大神は地の幽界を総攬さるる御経綸である。

瑞の御魂は、国常立尊の御神業の輔佐役となり、天地の神命により金勝要神と相並ばして、活動遊ばさるるといふことに定められた。これは、いまだ数千年の太古の神界における有様であつて、世界の国家が創立せざる、世界一体の時代のことであつた。

そこで盤古大神(塩長彦)の系統と、大自在天(大国彦)の系統の神が、大神の経綸を破壊し地の高天原を占領せむため、魔神を集めて一生懸命に押寄せてきた。しかしながら地

※日の出神の配偶神……聖師さまの妻と  
られた開祖の第五女大本二代教主出口澄子  
のこと。

※陸の竜宮館……綾部の大本の聖地を指  
す。

※輔佐役……絶体に欠かすことのできな  
い、車の両輪のようなもの。神業上で、瑞  
の御魂豊雲野尊は国常立尊と不離一体の神  
にましまし、この神の顕現や活動には補で  
はなく輔をつかう。(輔はたすけること。う  
しろ楯の意)。(補はおぎなうこと。または  
見習、候補の意)

の高天原へ攻め寄せるには、どうしてもヨルダンの大河を渡らねばならぬ。ヨルダン河には、前述のごとく、善悪正邪の真相が一目にわかる黄金の大橋がかかっている。それで真先に、その大橋を破壊する必要がある。ここに盤古大神の系統は武蔵彦を先頭に立てて進んできた。これは非常に大きな黒色の大蛇である。つぎに春子姫という悪狐の姿をした悪神が現われ、次には足長彦という邪鬼が現われ、そして其の黄金の大橋の破壊に全力を傾注した。

しかるに此の大橋は、金輪際の地底より湧きでた橋であるから、容易に破壊し得べくもない。思案に尽きたる悪神は、地底における大地の霊なる金勝要神を手に入れる必要を感じてきた。これがために百方手段をつくし奸計をめぐらして、瑞の御霊を舌の剣、筆の槍はまだ愚か凡ゆる武器を整え、従横無尽に攻め悩め、かつ、一方には種々姿を変じ善神の仮面を被りて、敵の御魂にたいして讒訴し、瑞の御魂の排斥運動を試みた。敵の御魂は稍し考慮を費し、ついにその悪神の心中謀計を看破され、直ちにその要求をはね付けられた。その時、足長彦の邪鬼、春子姫の悪狐、武蔵彦の大蛇の正体は神鏡に照されて奸計のこらず曝露し、雲霞となって海山を越え一つは北の国へ、一つは西南の国へ、一つは遠く西の国へといちはやく逃げ帰った。

ここにおいて第一戦の第一計画は、見事破られた。悪神は、ただちに第二の計画にうつることとなった。

※武蔵彦……上谷で相当な財産家の総領息子で、出口家養子候補者願望第三号り四方春造氏りこと。

※黒色の大蛇……露国のあたりに天地の邪気が凝り発生した八頭八尾の八岐の大蛇のことで、悪神の頭目の陽性の悪霊で、世界の統治者や指導者に憑って神霊世界や現実の世界を悪化しつづけている邪霊。

※春子姫……出口家養子願望候補者第二号の中村竹蔵氏のこと。

※悪狐……印度において極陰性の邪気が凝りかたまつて金毛九尾白面の悪狐が発生し、国々の国魂神および番頭神なる八王八頭の相手方の女の霊にのり憑った。

※足長彦……出口家養子願望候補者第一号の足立正信氏のこと。

※邪鬼……猶太の土地に邪気が凝り固まつて鬼の姿をして発生した邪鬼のことで、すべての神界ならびに現界の組織を打ち毀し、自分が盟主となって全世界を妖魅界にしようとする目論んでいる邪霊。

(附言) 神世開基と神息統合は世界の東北に再現さるべき運命にあるのは、太古よりの神界の御経綸である。

天に王星の顕われ、地上の学者智者の驚歎する時こそ、天国の政治の地上に移され、仁愛神政の世に近づいた時なので、これがいわゆる三千世界の立替立直しの開始である。

ヨハネの御魂は仁愛神政の根本神であり、また地上創設の太元神であるから、キリストの御魂に勝ること天地の間隔がある。ヨハネがヨルダン河の上流の野に叫びし神声は、ヨハネの現人としての謙遜辞であつて、決して真の聖意ではない。国常立尊が自己を卑うし、他を尊ぶの謙讓的聖旨に出でられたまでである。

ヨハネは水をもつて洗礼を施し、キリストは火をもつて洗礼を施すとの神旨は、月の神の靈威を発揮して三界を救うの意である。キリストは火をもつて洗礼を施すとあるは、物質文明の極点に達したる邪悪世界を焼尽し、改造するの天職である。

要するにヨハネは神界、幽界の修理固成の神業には、月の精なる水を以てせられ、キリストは世界の改造にあたり、火すなわち靈をもつて神業に参加したまうのである。故にキリストは、かえつてヨハネの下駄を直すにも足らぬものである。ヨハネは神界、幽界の改造のために聖苦を嘗められ、キリストは世界の人心改造のために身を犠牲に供し、万人に代つて千座の置戸を負いて、聖苦を嘗めたまう因縁が具わつておられるのである。これは神界において自分が目撃したところの物語である。

そしてヨハネの巖の御魂は、三界を修理固成された暁において五六七大神と顕現され、キリストは、五六七神政の神業に奉仕さるるものである。故にキリストは世界の精神上の表面にたちて活動し、裏面においてヨハネはキリストの聖体を保護しつつ神世を招来したまうのである。

耳で見ても目で見ても鼻でものくうて

口で嗅がねば神は判らず

耳も目も口鼻もきき手足きき

頭も腹もきくぞ八ツ耳

(大正一〇・一〇・二二 旧九・二二 桜井重雄録)

瑞 月

水は火の御魂によりて動かされ

火はまた水のちから得て燃ゆ